令和５年度
全国学力・学習状況調査結果及び分析

佐倉市教育センター

目　次

Ⅰ　令和５年度全国学力学習状況調査について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　教科の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

- 〇　小学校 国語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 〇　小学校 算数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 〇　中学校 国語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 〇　中学校 数学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 〇　中学校 英語 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅲ　児童生徒質問紙の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅳ　学校質問紙の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅰ　令和5年度 全国学力・学習状況調査について

1　調査実施日

令和5年4月18日（火）

2　調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

3　結果公表の趣旨

本調査において、市内小中学校全体の結果を公表することは、佐倉市教育委員会が保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすことになる。また、分析した調査結果は、各学校における教育活動の改善に生かすとともに、佐倉市教育委員会の施策に資するために活用する。

ただし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎない。以上のことを考慮し、学校では、教育活動の取組状況と本調査結果の分析を踏まえた指導改善策を併せて示すことで、児童生徒の学力向上に資することが望ましい。

4　結果の概況

（1）小学校

【佐倉市の平均正答率】　・国語：67%　・算数：63%

・国語は、正答率が千葉県平均と同程度であり、知識及び技能に関する内容、選択式の問題の正答率が高かった。

・算数は、千葉県の平均正答率を上回っており、変化と関係・データの活用の領域、選択式の問題の正答率が高かった。

（2）中学校

【佐倉市の平均正答率】　・国語：68%　・数学：49%　・英語：45%（話）13%

・国語は、千葉県・全国平均を下回っていたが、言葉の特徴や使い方に関する事項、選択式の問題の正答率が比較的高かった。

・数学は、千葉県・全国平均を下回っていたが、図形の領域に関する内容、短答式の問題の正答率が比較的高かった。

・英語は、千葉県・全国平均を下回っていたが、読むことの領域の正答率が高かった。

Ⅱ　教科の分析 【小学校国語】

１　小学校国語の平均正答率

問題数　14問	佐倉市（公立）	67％
	千葉県（公立）	67％
	全国　（公立）	67％

２　小学校国語に関する調査の結果の概要

〇知識及び技能に関する内容の正答率が高かった。
〇選択式の問題の正答率が高かった。
▲書くことに関する思考力、判断力、表現力等の内容に課題があった。
▲記述式の問題の正答率が低かった。

３　小学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

〇目的に応じて文章や図表から、必要な情報を見つけることができていた。
〇話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えて解答することができていた。
▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように表現することに課題があった。

４　小学校国語の改善策

☆児童の学習の状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示する。

☆文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切である。

Ⅱ　教科の分析　【小学校算数】

1　小学校算数の平均正答率

問題数　16問	佐倉市（公立）	63%
	千葉県（公立）	62%
	全国　（公立）	63%

2　小学校算数に関する調査の結果の概要

〇変化と関係、データの活用の領域に関する内容の正答率が高かった。
〇選択式の問題の正答率が高かった。
▲他の領域に比べ、数と計算の領域に関する内容に課題があった。
▲図形の領域に関する内容に課題があった。

3　小学校算数に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

〇変化と関係の領域のうち、百分率で表された割合について理解することができている。
〇データの活用の領域のうち、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができている。
▲加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに課題がある。
▲高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

4　小学校算数の改善策

☆分配法則を取り扱う際には、図や具体物を用いて、同じ場面を異なる二通りの捉え方をして、それぞれの捉え方に対して式で表し、答えが同じになることを理解できるようにすることが大切である。

☆図形を構成する要素に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見出したり、それらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるように指導することが大切である。

Ⅱ　教科の分析　【中学校国語】

１　中学校国語の平均正答率

問題数　15問	佐倉市（公立）	68％
	千葉県（公立）	69％
	全国　（公立）	70％

２　中学校国語に関する調査の結果の概要

〇話すこと・聞くことに関する思考力、判断力、表現力等の正答率が比較的高かった。
〇記述式の問題の正答率が比較的高かった。
▲情報の扱い方に関する事項に関する思考力、判断力、表現力等の内容について課題があった。
▲短答式の問題に課題があった。

３　中学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

〇事象や行為、心情を表す語句について理解することができている。
〇文章の中心的な部分と付加的な部分についての叙述を基に、要旨を把握することができていた。
▲文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題があった。
▲文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題があった。
▲文脈に即して漢字を正しく書くことに課題があった。

４　中学校国語の改善策

☆生徒が自分で課題を設定し、その解決のために文章を読む学習活動の中で、文章を読んで理解したことと自分の考えや経験とを比較したり関連付けたりしながら解決策や改善策を考える場面を設定するなど、主体的に文章を読むことができるように指導することが大切である。

☆表現の仕方に着目しながら一つの文章を読み、その文章において見られた表現の特徴や工夫が他の文章でも見られるかを確かめたり、二つの文章を同一の観点で比較して特徴や工夫を見出し、その効果を考えたりする学習活動などが考えられる。

☆漢字の書きについては、小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「Ａ話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。

Ⅱ　教科の分析　【中学校数学】

1　中学校数学の平均正答率

問題数　15問	佐倉市（公立）	49％
	千葉県（公立）	51％
	全国　（公立）	51％

2　中学校数学に関する調査の結果の概要

〇県・全国平均を全体的に下回っていたが、図形の領域に関する内容、短答式の問題の正答率が県・全国平均と同程度だった。
▲数と式、関数の領域に関する内容に課題があった。
▲思考・判断・表現に関する内容に課題があった。

3　中学校数学に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

〇日常的な事象を数学的に考え、問題解決することが比較的できていた。
〇図形の証明において、問題解決の過程や結果を振り返り、評価・改善することができていた。
▲数学的用語の意味理解に課題があった。
▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があった。
▲構想を立てて説明し、問題解決の過程や結果を振り返って考えることに課題があった。

4　中学校数学の改善策

☆予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数や文字式を用いて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見出した事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。
☆事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。

Ⅱ　教科の分析　【中学校英語】

1　中学校英語の平均正答率

【聞くこと・読むこと・書くこと】

問題数　17問	佐倉市（公立）	45%
	千葉県（公立）	46%
	全国　（公立）	46%

【話すこと】

問題数　5問	佐倉市（公立）	13%
	全国　（公立）	12%

2　中学校英語に関する調査の結果の概要

〇読むことに関する領域の正答率が高かった。
〇選択式の問題の正答率が比較的高かった。
▲聞くことに関する領域の正答率に課題があった。
▲記述式の問題の正答率に課題があった。

3　中学校英語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

〇事実と考えを区別して読むことができている。
〇文と文との関係を正確に読み取ることができている。
▲日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題があった。
▲未来表現（be going to）の肯定文や疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題があった。
▲疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能に課題があった。（話すこと）

4　中学校英語の改善策

☆自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが大切である。
☆場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高めていけるように授業を構成し、指導することが必要である。
☆基本的な文法事項を理解して、即興で伝え合うことができるようにするには、文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解すること、そして実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。

Ⅲ　児童生徒質問紙の分析

※ ○：良好なもの　▲：課題が見られるもの　◎考察

学習習慣

▲小学校では、県や全国と比較して学校以外の学習時間が短い傾向にある。
○中学校では、県や全国と比較して学校以外の学習時間が長い傾向にある。
○家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒が県や全国平均と比べて多い。
○読書時間においては、「読書が好き」と答えた児童生徒が多かった。
○小学校では、普段３０分以上読書をすると答えた割合が県や全国平均に比べて高かった。
◎読書における肯定的な回答率は、国語・算数の正答率と相関関係にあり、読書が好きな児童生徒は学習調査の正答率が高いことがわかった。

ＩＣＴを活用した学習

○「学習の中でＩＣＴ機器を使うことは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒が多かった。
▲小学校では、授業におけるＩＣＴの使用頻度は、全国・千葉県の平均を大きく下回った。
▲ほぼ毎日ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用していると回答した割合は全国が２８％であるのに対し、１５％と低かった。中学校では、全国では２８％であるのに対し、１０％と低かった。
◎児童生徒は学習の中でＩＣＴ機器を使うことに利点があると考えているが、実際には、あまり使用していないと感じていることがわかる。ＩＣＴ機器を、今までの教育実践と併用しながら、進んで活用していくことが求められる中、活用率があまり上がっていないことがわかった。文部科学省は「もはや学校のＩＣＴ環境は、その導入が学習に効果的であるかどうか議論する段階ではなく、鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠なものとなっていることを強く認識する必要がある。」と述べている。（文部科学省新時代の学びをさせる先端技術活用推進方策より）佐倉市としても、ＩＣＴ機器を積極的に活用していくことが強く求められる。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合は全国・県の平均に比べて高かった。
○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒が多かった。
▲中学校では、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したことがある」と回答した生徒の割合は全国では６１％であるのに対し、５３％と低かった。
▲中学校では、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答した生徒の割合は６５％で低い傾向にあった。
◎小中学校ともに学習した内容について復習したり、見直しをしたりする習慣がついている。また、話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができていと感じている児童生徒が多い。一方、話の組み立てなどを工夫したり、自分の考えをまとめたりする活動が充分ではない。授業の構成を考える際に、意識的に自分の考えをまとめる学習等を取り入れることで、授業改善につながると考えられる。

Ⅳ　学校質問紙の分析

※ ○：良好なもの　▲：課題が見られるもの　◎：考察

学校運営に関する状況／教員の資質向上に関する状況

○小学校では、教員が授業で問題を抱えた場合、中学校では、教員が学級の問題を抱えた場合、率先して話し合いをもった割合が全国や県に比べて高かった。

◎小中学校において、授業の悩みや学級での問題に対して、早期に対応して解決を図っていることがわかった。

ＩＣＴを活用した学習状況

▲小学校において、教員がＩＣＴ機器を活用した授業やタブレットを活用した授業を行う頻度が少ないことがわかった。

▲小学校の教員によるＩＣＴ機器を活用した授業は、昨年度も県と全国と比べて低かった。

○中学校において、生徒がタブレットなどのＩＣＴ機器を授業で活用した頻度の割合が増え、県や全国と同程度となった。（児童生徒質問紙の使用頻度は低い数値であり、意識に差が見られた。）

◎佐倉市におけるＩＣＴ機器を活用した学習状況は芳しくないことがわかった。特に小学校では、使用頻度が前年度より減るという結果になった。実際１人１台端末の活用は、多くの学校・教師にとって大きなチャレンジとなっている。全体で事例を共有する等の研修の機会をもち、トライ＆エラーで活用機会を増やしていくことが必要である。

小学校教育と中学校教育の連携

▲全体的に他校との連携・情報共有等に課題があった。

▲小中学校間における教育課程の接続や授業研究の実施、全国学力・学習状況調査の結果の共有について、全国平均に比べ、大幅に低い結果となった。

◎小学校時点における生徒指導上、学習上の課題の共有することで、小中学校間の円滑な接続を図り、中１ギャップを減らすことにつながる。さらに、校内授業研修の相互参観、研修会の共同実施、小中交流会等について年度当初からお互いの学校の年間計画に位置付けることで、より充実した小中連携につながると考える。

家庭学習

▲家庭学習の課題の課し方について、校内で共通理解を図り、児童生徒に家庭学習を促している割合が低かった。

▲児童生徒が行った家庭学習の課題を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている割合が低かった。

◎佐倉市では、佐倉型カリキュラムのもと、学校での学習時間と家庭での学習時間、両方においてバランスよく学ぶことが必要であると考える。学校全体で共通理解のもと、家庭学習の具体的な方法を提示したり、タブレットを活用したりするなど、より効率的な家庭学習となるよう工夫が求められる。